新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第85号

§ 平成 28 年度愛鳥講演会　　テーマは「猛禽類」 §

会場の様子　参加者数が過去最高を記録！

平成 28 年 11 月 23 日（水・祝）に新潟県立生涯学習推進センター1 階ホールにおいて、愛鳥講演会を開催しました。参加者は 132 名（内講師 2 名）で過去最高を記録しました。

今年度のテーマは「猛禽類」とし、野鳥の中でも人気が高い猛禽類について講演を行いました。

また、季節ごとのさまざまな鳥たちの写真を通して自然の素晴らしさにふれてもらえるよう、美しい野鳥写真によるスライド発表も行いました。

美しい野鳥写真を紹介してくださった山崎勝明氏

はじめに、山崎勝明氏から「一期一会～野鳥との出会い～」と題し、県内で撮影された美しい野鳥写真とそれにまつわるエピソードなどについて発表いただきました。

カンムリカイツブリのペアが首をハート型にあわせたり、エナガの巣立ちヒナが団子のように並ぶ姿など、どれも普段なかなか見られない瞬間を捉えた写真ばかりで、参加者からは「貴重な写真が素晴らしかった」という声が多数寄せられました。

つづいて、日本野鳥の会新潟県会長の石部久氏から「新潟県の自然と猛禽（ﾜｼ・ﾀｶ・ﾊﾔﾌﾞｻ）のくらし ～生態系のしくみと生息環境の選択～」と題し、新潟県の多様な自然環境と生息する野鳥との関わり、その中で生態系の頂点にある猛禽類の生息環境や捕食行動などについて講演いただきました。鳥によってエサや食べ方、食べる場所が違うことを数多くの写真を用いて解説いただき、鳥の口の中の珍しい写真も紹介していただきました。とにかく写真が素晴らしくて説得力があり、ときおりユーモラスな解説を交えながらの講演に、会場からはどよめきや笑いが起こっていました。後半はイヌワシなど真冬の厳しい自然条件の中で撮影された貴重な写真や、オオタカ・ハヤブサの鮮明な生態写真を用いて猛禽類のくらしや生息環境との関係についてお話いただきました。参加者からは「鳥の形態とエサの関係など大変勉強になりました」「新潟県の環境の多様性に感動しました」など多くの声が寄せられました。

ユーモラスに猛禽類の生態を解説してくださった石部久氏

講演会終了時に参加者から提出していただいたアンケート結果や今後の情報収集を参考に、皆さんが高い関心を持っている野鳥をテーマに次年度も講演会を開催していきます。ご期待ください！

当日配布資料のイラストは日本野鳥会新潟県事務局長の桑原哲哉氏が描いてくださいました

§　鳥インフルエンザ　～　なぜ大騒ぎになるのか？　§　　佐藤　準

昨年 11 月頃から日本各地で鳥インフルエンザウイルスが検出され、大騒ぎになっています。数十万羽の鶏を殺処分するというショッキングなニュースをご覧になった方も多いでしょう。日本国内でこのウイルスに感染して人間が死んだわけでもなく、あるいは多数の養鶏場で鶏が全滅したわけでもないのに、なぜこれほどの騒ぎになるのでしょうか？　その理由は、主に次の２つです。

１）蔓延すると根絶は困難

養鶏場で鳥インフルエンザが発生すると、そこで飼育しているすべての鶏が死ぬわけではありません。症状が現れない鳥もいますし、発症しても死には至らず快復する鳥もいます。それなのになぜ飼っている鶏をすべて殺処分するのでしょう？

それは、１か所の養鶏場で発生した鳥インフルエンザをそこのみでとどめることができなければ、この病気が広くかつ長期に蔓延してしまう可能性があるからです。より甚大で深刻な被害が発生し、その根絶は極めて困難になります。

鳥インフルエンザは、家畜伝染病予防法で発生時の対処が決められている病気で、殺処分や移動制限など、その対策は感染を限られた場所に封じ込めるためのものです。

２）人間で大流行する可能性がある

1917～18 年、スペインかぜが大流行し、世界中で５千万～1 億人、日本でも約 39 万人の死者が出ました。スペインかぜは、ヒトインフルエンザウイルスによる病気で、元々はハクチョウやカモなどが持っていた鳥インフルエンザウイルスといわれています。

鳥インフルエンザウイルスは、本来人間には感染しません。ところが、鳥や一部の哺乳類の間で感染を繰り返すうちにウイルスの性質が変わり、病原性が増したり、人間に感染するようになります。この性質の変化した新型インフルエンザウイルスに対しては、人間は誰も免疫を持っていませんから、スペインかぜのように爆発的に流行する可能性があります。

今回の騒ぎの元となった鳥インフルエンザウイルスも、現在はよほどのことがなければ人間には感染しませんが、いずれ性質を変えて人間から人間へうつる新型のヒトインフルエンザウイルスとなれば、世界的に大流行して多大な被害をもたらすかもしれません。

そのため、感染症法では、人間がかかった鳥インフルエンザを、「診断後直ちに届出が必要な病気」として指定しています。

鳥インフルエンザウイルスは、野鳥によって運ばれ拡散するといわれており、日本で問題になるのは主に冬です。韓国で被害が出ているという報道がされてから数ヶ月後に日本で発生することが多く、諸外国の発生状況にも留意する必要があります。

§　おめでとう！！　長岡市立中野俣小学校が環境省自然環境局長賞を受賞　§

「ポスターセッション」形式による発表の様子

「第 51 回全国野生生物保護実績発表大会」(主催：環境省及び公益財団法人日本鳥類保護連盟) が 11 月 21 日（月）に環境省にて開催されました。

シジュウカラ第 84 号でお知らせしたとおり、本県から推薦された長岡市立中野俣小学校が一次書類審査を通過して全国大会に出場し、「環境省自然環境局長賞」を受賞しました。

今後も学校と地域、そして指導くださる野鳥保護団体の方々と連携を深め、更なる活動を期待いたします。

以下の大会の様子は「学校だより」から引用させていただきました。

『全国大会は「ポスターセッション」という形式です。活動の様子をまとめた大きな模造紙をもとに、説明を加えながらの発表を５回繰り返すというものでした。発表の合間には質問や意見の交流が何度もあり、子どもたちの伝える力が試されました。

「なぜその結論が導き出されるのか。」「数値から言えること、言えないことは何か。」「活動を通し、地域はどう考えたか。」等々、たくさんの質問や意見が審査員である専門家から出されました。その一つ一つに答えるために、子どもたちの頭はフル回転でした。愛鳥モデル校指定から５２年目の今年、県の代表に選ばれ、全国ですばらしい取組を伝えることができました。』

全国大会での受賞の様子

§ 傷病鳥獣の収容状況 §

平成 28 年 8 月 1 日～11 月 30 日までの収容数は、鳥類 64 種 159 羽、獣類 2 種 3 頭で、昨年度の同時期（鳥類 183 羽獣類 3 頭）と比べ鳥類は減少した。

平成28年度　8月～11月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数	収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数
（鳥類）								35	アカショウビン		2			2	0
1	キジ		2			2	0	36	カワセミ		1			1	0
2	コハクチョウ	3	15	1		12	5		ヤマセミ	1				1	0
3	オオハクチョウ	1	1				2	37	アカゲラ		1			1	0
4	オシドリ		1			1	0		チョウゲンボウ	1				1	0
5	マガモ	1	2			1	2	38	ハヤブサ		2			2	0
6	カルガモ	1	4	1		1	3	39	オナガ		1			1	0
7	コガモ		2			2	0	40	ハシボソガラス	1	1			1	1
8	スズガモ		2			1	1	41	シジュウカラ		1	1			0
9	カイツブリ		1	1			0	42	ツバメ	1	5	1		5	0
10	カンムリカイツブリ		1			1	0	43	イワツバメ		1			1	0
11	キジバト		5	3		2	0	44	ヒヨドリ		2			2	0
12	アオバト		7			7	0	45	ウグイス		7			7	0
13	シロハラミズナギドリ		1			1	0	46	ヤブサメ		3	2		1	0
14	オオミズナギドリ		13	4		9	0	47	メボソムシクイ		1	1			0
15	ゴイサギ		2			2	0	48	メジロ		1	1			0
16	アオサギ		2			2	0	49	シマセンニュウ		3			3	0
	ダイサギ	2					2	50	ムクドリ		3			3	0
17	チュウサギ		1			1	0	51	コムクドリ		1			1	0
18	コサギ		1			1	0	52	トラツグミ		1			1	0
19	オオバン		2			2	0	53	マミチャジナイ		1			1	0
20	ホトトギス		2			2	0	54	シロハラ		5	3		2	0
21	ツツドリ		2	2			0	55	スズメ	2	4	2		4	0
22	アカエリヒレアシシギ		2	1			1	56	キセキレイ		1			1	0
23	ユリカモメ		1			1	0	57	ハクセキレイ		1			1	0
24	ウミネコ	1	4	1		4	0	58	カワラヒワ		1			1	0
25	カモメ		1			1	0	59	ウソ		1	1			0
	セグロカモメ	1					1	60	イカル		1			1	0
26	オオセグロカモメ	1	1			1	1	61	ミヤマホオジロ		1			1	0
27	トビ	4	6			7	3	62	ドバト		5	1		4	0
28	ツミ		1			1	0	63	アヒル		1			1	0
29	オオタカ		2			1	1	64	不明		2	1		1	0
30	サシバ	1	1	1			1	小計		25	159	32	0	125	27
31	ノスリ	1	3	1		2	1								
	クマタカ	1					1	（獣類）							
32	オオコノハズク		2			2	0	1	ノウサギ		2			2	0
33	フクロウ		4	2		1	1	2	タヌキ		1			1	0
	トラフズク	1				1	0	小計		0	3	0	0	3	0
34	コミミズク		1			1	0	合計		25	162	32	0	128	27

＜特記事項＞

・シロハラミズナギドリ

平成 28 年 10 月 10 日、柏崎市中浜地内の畑で保護され、翌 11 日センターに収容された。
強制給餌を行い治療飼育に努めたが、14 日に死亡した。
収容時の体重：109.6g
この個体は、平成 13 年に次いで 2 例目。

日本近海では小笠原諸島の聟島（むこじま）や硫黄島で繁殖し、周辺の海域に生息する。
夜間に発光性のイカ類などを捕食する。

強風で新潟県まで
飛ばされたんだね・・・

§ 8～11 月の探鳥会・観察会 §

波打ち際に続くトウネンの群れ

8/28（日）シギ・チドリ観察会　9:00～10:40　（晴れ）
場所：網代浜　参加者:30 名　観察種：16 種【①】

テトラポッドに止まるウミネコやオオセグロカモメなどを確認した後、砂浜へ向かいました。波打ち際には、浜の奥のほうまでトウネンの群れが 150 羽ほど続いていました。ミユビシギ 15 羽以上やハマシギ 1 羽が混じるのもじっくり観察することができました。

虫の音に耳を澄ませます

9/3（日）マツムシの声を楽しむ会　18:00～20:00　（晴れ）
場所：紫雲寺記念公園　参加者:9 名　観察種：14 種
（紫雲寺記念公園グループ共催）

愛鳥センター駐車場の草地では、カネタタキや数種類のコオロギの仲間の声を聞くことができました。散策を続けると、あたりは徐々に暗くなり、いよいよ本命のマツムシやスズムシ、アオマツムシ、カンタンなどの声が聞こえてきました。今年は気温が高く、例年に比べて聞こえる虫の数が少なかったようです。

9/25（日）タカの渡りを見る会　10:00～12:00　（晴れ）
場所：内の倉ダム　参加者:63 名　観察種：23 種【②】

愛鳥センター探鳥会では初めての会場となりました。まさにタカ渡り日和、というくらい良いお天気で、開始前からハチクマ、サシバ、ツミ数羽が南へ向けて渡っていく姿が見られました。そして、サービス満点のハヤブサが登場！見晴らしの良い枝に止まったと思ったら食事を始め、食べ終わって優雅に飛び去るところまでゆっくり観察することができました。

尾根の上にタカ発見！

傘を差しながらの観察会でした

10/23（日）秋の渡りを見る会　9:00～11:00　（曇り時々雨）
場所：福島潟　参加者:33 名　観察種：32 種【③】

開始早々、駐車場脇の電線に止まるコチョウゲンボウを発見しました。上空ではコハクチョウやオオヒシクイの群れが飛んで行き、潟の中ではたくさんのコガモやマガモ、ハシビロガモなどが観察できました。観察舎の「雁晴れ舎」からはヨシ原の上を風に乗って飛ぶチュウヒが数羽見られました。

10/30（日）紫雲寺記念公園探鳥会　9:00～10:30（晴れ）
場所：紫雲寺記念公園　参加者:14 名
観察種：20 種【④】（紫雲寺記念公園グループ共催）

タカ柱を作るノスリやトビ、上昇気流に乗るミヤマガラスの群れなどが見られました。その他、シジュウカラとヤマガラの混群や、キクイタダキ、ヒガラも観察できました。特に、エゾビタキの若鳥はサービスが良く、木に止まるかわいらしい姿をじっくり見ることができました。

サービス満点のエゾビタキ

11/13（日）冬の初心者探鳥会　8:00～9:30　（晴れ）
場所：瓢湖　参加者:10 名　観察種：20 種【⑤】

湖面にいるハクチョウたちが青空の中、次々とエサ場となる田んぼに向かって飛び立っていく姿が見られました。残るたくさんのカモたち、特にオナガガモやホシハジロ、キンクロハジロなどをじっくり観察し、講師の先生に教えていただきながらオスとメスの違いも確認しました。他にノスリやツグミなども観察できました。

たくさんのハクチョウたち

探鳥会の確認鳥種

No.	種名	①	②	③	④	⑤
1	ヒシクイ			●		
2	マガン			●		
3	コハクチョウ			●		●
4	オオハクチョウ					●
5	ヒドリガモ			●		●
6	マガモ			●		●
7	カルガモ			●		●
8	ハシビロガモ			●		●
9	オナガガモ			●		●
10	コガモ			●		
11	ホシハジロ					●
12	メジロガモ					●
13	キンクロハジロ					●
14	カンムリカイツブリ			●		
15	キジバト	●	●			
16	カワウ		●	●		●
17	ウミウ	●				
18	アオサギ	●	●	●		●
19	ダイサギ		●	●		
20	コサギ	●				
21	オオバン			●		●
22	タシギ			●		
23	ミユビシギ	●				

No.	種名	①	②	③	④	⑤
24	トウネン	●				
25	ハマシギ	●				
26	ウミネコ	●				
27	オオセグロカモメ	●				
28	ミサゴ	●	●	●	●	
29	ハチクマ		●			
30	トビ	●	●	●	●	●
31	チュウヒ			●		
32	ツミ		●			
33	オオタカ			●		
34	サシバ		●			
35	ノスリ		●	●	●	●
36	クマタカ		●			
37	コゲラ		●		●	
38	アカゲラ		●	●	●	
39	アオゲラ		●			
40	コチョウゲンボウ			●		
41	ハヤブサ		●			
42	モズ			●		
43	カケス		●			
44	ミヤマガラス				●	
45	ハシボソガラス	●		●		●
46	ハシブトガラス	●	●	●	●	

No.	種名	①	②	③	④	⑤
47	キクイタダキ				●	
48	ヤマガラ		●		●	
49	ヒガラ				●	
50	シジュウカラ		●	●	●	
51	ツバメ	●				
52	ヒヨドリ		●	●	●	
53	ウグイス				●	
54	メジロ		●		●	
55	ムクドリ			●		
56	ツグミ					●
57	エゾビタキ				●	
58	スズメ	●		●	●	●
59	キセキレイ		●			
60	ハクセキレイ		●			
61	アトリ				●	
62	カワラヒワ	●		●	●	●
63	ホオジロ				●	
64	カシラダカ				●	●
65	アオジ			●		
66	オオジュリン			●		
	計	16	23	32	20	20

§インターンシップ実習生と職場体験の生徒が業務を体験しました §

8 月 20 日～21 日の 2 日間、新潟大学よりインターンシップ実習生が 1 名、また 10 月 12 日～13 日の 2 日間、紫雲寺中学校より生徒 1 名が職場体験に来てくれました。実習内容は、飼育舎の清掃と餌やり、「巣箱作り教室」や特別展準備の手伝いなど、愛鳥センターで日々行っている作業を体験してもらいました。

8 月は暑い中での作業でしたが、インターンシップ実習生は鳥が好きだということもあり、「楽しかったです」と熱心に取り組んでくれました。

10 月の職場体験の生徒からは「探鳥路や救護棟で、初めての鳥がいろいろ見られて良かったです。実際作業をしてみると、遊びにきていたときとは違うなと感じました。そして、この施設の大切さや必要性を感じました。」という感想を寄せてもらいました。

それぞれ、どの仕事も積極的にまじめに取り組んでくれ、普段出来ない経験をしてもらえたと思います。

ハクチョウとカモ類の水槽を掃除中

入り口スロープを掃除中

§ 平成 29 年度愛鳥週間用 ポスター原画募集新潟県大会 §

平成 29 年度愛鳥週間用ポスター原画募集新潟県大会の審査会を平成 28 年 9 月 12 日に愛鳥センターで行いました。このポスター原画募集は制作過程を通じて野生鳥獣保護思想の高揚を図る目的で県内の愛鳥モデル校より毎年募集しているもので、今年度は小学校から 242 点（8 校）、中学校から 26 点(2 校)合計 268 点の応募がありました。（審査結果は表のとおりです）

今年度の特徴は、いろいろな視点から見ているユニークな構図の作品が多かったですが、人と鳥とのつながりを表現している作品は少なかったです。小学校の部では、カワセミの生態の雰囲気をよく捉えていた南魚沼市立第二上田小学校 6 年長田志道さんの作品が、中学校の部では、構図に動きがあり、川の流れや微妙な色使いが良く、カルガモのヒナをしっかりと描いた五泉市立愛宕中学校 3 年周佐茉奈実さんの作品がそれぞれ金賞を受賞しました。金賞・銀賞の作品は公益財団法人日本鳥類保護連盟による全国大会へ応募しました。

〈審査結果表〉

賞	小学校の部	中学校の部
金賞	長田志道(第二上田小6年)	周佐茉奈実(愛宕中3年)
銀賞	河村　唯　(中条小5年) 吉原夏美　(鮫波小6年)	今井にこ　(愛宕中2年) 松田雪那　(愛宕中1年)
銅賞	須貝汰一　(中条小5年) 本間胡桃　(藤塚小3年) 加藤　彩　(明治小5年)	小林優花　(愛宕中2年) 小林美和子(中郷中3年) 丸山慈希　(中郷中2年)

月	8 月	9 月	10 月	11 月	計	累計
来館者数	763	1, 489	940	758	3, 950	597, 390

館内設置のトキ募金箱の報告

平成 28 年 9 月～平成 28 年 12 月　**３，１２６円**

累計　**２７１，６４２ 円**

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。
今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
開館時間：午前 9 時～午後 4 時
休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池
Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501
HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho
E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

小学校の部「金賞」
長田志道さん（第二上田小 6 年）

中学校の部「金賞」
周佐茉奈実さん（愛宕中 3 年）

§ 全国大会結果報告 §

全国大会「入選」
河村唯さん（中条小 5 年）

平成 28 年 10 月 14 日（金）に、「平成 29 年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール全国大会」の審査結果が発表されました。（応募総数 63, 712 点）

本県からは小学校の部 3 点、中学校の部 3 点の計 6 点を応募しました。その中から小学校の部で銀賞を受賞した河村唯さん（胎内市立中条小学校 5 年）の作品が「入選」しました。

３月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・ハクチョウを見送る会（お幕場大池駐車場集合）
3/12（日）　9:00～11:00

講演会ほか（申込みが必要です）

・新潟県野鳥保護の集い（瓢湖）
2/19（日）　10:00～15:00
内容：午前は瓢湖で探鳥会、午後は阿賀野市福祉会館で野鳥保護の集い（講演会等）
申込・問合せ：愛鳥センター 0254-41-4500
申込締切：2 月 11 日(土)まで
参加費：無料　/　定員：100 名（先着）
対象：小学校高学年以上

・愛鳥学習会（県立生涯学習推進センター）
3/5（日）　13:30～15:00
内容：初心者を対象に野鳥観察の楽しみ方を学習します。
講師：新潟市環境政策課　小林博隆　氏
フォトグラファー　菅原貴徳　氏
申込・問合せ：愛鳥センター 0254-41-4500
申込締切：2 月 26 日（日）まで
参加費：無料　/　定員 80 名（先着）